

成果の説明書

(氏名) 小牧 幸代	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
① 調査・研究	
<p>2019年度は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究（C））「インド・イスラーム表象の観光化と芸術化：テーマパークとモダンアートを中心に」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の最終年度であり、これまでに収集した世界各地のテーマパークにおける「イスラーム風アトラクション」「宗教ナショナルリズム的アトラクション」「愛国アトラクション」等に関するデータの整理と分析を継続するとともに、インターネットや文献資料を通じて最新の関連情報を収集した。また、2013年度から断続的に調査を実施してきたインドのテーマパークにおいて、宗教・民族・国家・歴史・自文化ならびに異文化がどのように表象されているかに関する最終的な現地調査・資料収集をおこなった。すなわち、これまでの調査研究結果を踏まえ、テーマパークのパークマネージャーと、テーマパークの運営会社である大手映画配給会社の会長とその家族に、率直な疑問をぶつける形でインタビュー調査を実施した。これまでは、テーマパークの構成やアトラクションの内容などについて、状況証拠をもとに推察し議論を組み立ててきたが、今回、アトラクションの企画とテーマパークの運営にたずさわる会長とその家族、さらに現場をよく知るパークマネージャーの側からの見解や意図を直に聞くことができ、非常に貴重な経験となった。他方、モダンアートに関する最終的な現地調査・資料収集は3月後半に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でインド出張をキャンセルすることになった。そのため、これまでに蓄積した調査データと資料に基づいて研究成果をまとめていきたい。</p> <p>次に、研究分担者となっている科学研究費助成事業（科学研究費補助金・基盤研究（A））「＜ジェンダーに基づく暴力＞の文化人類学的研究」（研究代表者：京都大学人文科学研究所教授・田中雅一）は、2019年度が研究期間の最終年度であり、京都人類学研究会シンポジウム、人間文化研究機構プログラム南アジア地域研究東京外国語大学拠点研究会、日本南アジア学会第32回全国大会分科会、上智大学研究機構イスラーム研究センター公開シンポジウムにおいて、「ノルウェーのパキスタン系移民社会」の事例を中心とした研究成果発表をおこなった。現地調査・資料収集は、英国マンチェスター市のパキスタン系移民社会で実施した。さらに、人間文化研究機構プログラム南アジア地域研究東京外国語大学拠点からの助成により、パキスタンにおいて、ノルウェー在住の「パキスタン系移民の故郷訪問に関する現地調査・資料収集」をおこなった。この科研の成果は2020年度の科研出版助成により論文集として刊行されることが決まり、本研究の成果もその部分となる予定である。</p> <p>同時進行中の3つめの研究テーマ「聖遺物信仰の21世紀的展開とバレーリー派の思想・運動」については、2019年度に新規採択された科学研究費助成事業（科学研究費補助金・基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸）の分担者としてセネガル共同調査に参加し、ダカール、ンジャサン、ティヴァワン、カオラックの各都市を訪問し、スーフィー教団の本拠地や教団の指導者らの墓廟、モスク、門前町、宗教用品・土産物に関する現地調査と資料収集をおこなった。また、同科研主催の研究会において「イスラームにおける聖遺物崇敬研究の理論化に向けて」というタイトルで研究発表をおこなった。</p>	

②論文・著書・エッセイ

◆小牧幸代 2020 「南アジアにおけるジェンダー暴力と女性の自立支援：消費社会化・グローバル化の中で」『サーラー通信 (ニューズレター)』NPO 法人女性の家サーラー。

③研究発表

◆2019年4月13日「オスロのパキスタン系移民社会におけるイトコ婚と暴力」京都人類学研究会シンポジウム@京都大学稲森財団記念会館。

◆2019年6月15日「ノルウェーのパキスタン系移民社会と強制結婚」人間文化研究機構プログラム南アジア地域研究東京外国語大学拠点研究会@東京外国語大学・本郷サテライト。

◆2019年10月5日「オスロのパキスタン系移民社会と『強制結婚』：イトコ婚の実践をめぐる」日本南アジア学会第32回全国大会@慶應義塾大学日吉キャンパス。

◆2019年11月16日「パキスタン系ムスリム移民の生活誌：オスロのリトル・パキスタンを中心に」上智大学研究機構イスラーム研究センター公開シンポジウム@上智大学四谷キャンパス。

2 その他の事項

◆2019年5月31日・6月7日にラジオ高崎のラジオゼミナールにおいて「インドのテーマパーク」に関する話がオンエアされた。

◆2020年3月3日に横浜市のNPO法人「女性の家サーラー」が主催する2019年度公開セミナーにおいて「南アジアにおけるジェンダー暴力と女性の自立支援：消費社会化・グローバル化の中で」というタイトルで一般向けの講演をした。

3 次年度以降の計画・抱負

2020年度は、新規に採択された科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究（C））「パキスタン系ムスリム移民社会における『強制結婚』：ノルウェーの事例研究」（研究代表者：小牧幸代）の研究期間の1年目となる。この研究テーマは、2019年度で終了した上述のプロジェクト「〈ジェンダーに基づく暴力〉の文化人類学的研究」を進める中で直面した深刻な問題を解決するために設定したものであり、ノルウェーを主要な調査地としつつ、英国・マンチェスター、日本、パキスタンでも調査をおこない、「強制結婚」の実態とその文脈の通文化比較を試みる。

他方、科学研究費助成事業（科学研究費補助金・基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」（研究代表者：上智大学総合グローバル学部教授・赤堀雅幸）は、研究期間の2年目である。インターネットや文献資料を通じて、バレーリー派の動向に関する最新の関連情報を収集するとともに、インドでの現地調査・資料収集を計画している。

インドのテーマパーク研究を通じて明らかになった問題意識と分析視角は、科研プロジェクトが終了した2020年度も、日本のテーマパーク、そして遊園地を対象を広げて調査研究に活用し、さらに精度を高めていく。具体的には、高崎市をはじめ、群馬各地の遊園地・テーマパークで現地調査・資料収集を実施し、新しい観点からの「日本の遊園地・テーマパーク」研究につなげていく。